

タイヤ・ホイール取扱い注意事項

1. タイヤ選定のご注意

- ・ 車両メーカーが指定した標準タイヤ又はオプションタイヤの使用を基本とし、その他のタイヤを選定される時は、タイヤ販売店にご相談ください。
- ・ 同一車軸には同一種類のタイヤを使用して下さい。



警告

- ・ 車両の種類、用途、使用条件に適したタイヤを使用して下さい。
- ・ タイヤサイズに適合したホイールを使用して下さい。



警告

- ・ リ・グループ、穴あけ等の加工をしたタイヤは、損傷したり、事故に繋がる恐れがあるので、使用しないでください。

2. 走行前点検に関するご注意



警告

- ・ すり減ったタイヤは、運動性能が低下したり、濡れた路面や坂路(スロープ)でスリップしやすくなるなど危険です。タイヤショルダー部に交換の目安となる表示があります。交換推奨マーク(▲)まですり減ったタイヤは、制動距離が長くなったり、スリップしやすくなるため、新品タイヤとお取り換えください。使用限界マーク(▲)に達したタイヤは、車体下部が路面に接触したり、クッション性の低下によるタイヤの損傷及び車両各部に悪影響を及ぼすなど危険です。ただちに使用を中止し、新品タイヤにお取り換えください。

また、この交換推奨、使用限界を示す表示は、あくまで交換の目安であって、品質保証期間・期限を示すものではありません。環境条件、保管条件及び使用方法によって、交換推奨マークまですり減っていないタイヤであっても、損傷具合により交換が必要になる場合があります。



警告

- ・ 積雪及び凍結路面を走行する場合は、スノータイヤの残り溝が新品時の50%以上あること(トレッド部にスノータイヤの摩耗限度を示すプラットホームが露出していないか)を確認してください。溝深さが50%未満のタイヤは、スノータイヤとして使用できません。



警告

- ・ タイヤに傷やひび割れが無い、異物が刺さっていないか、サイド部に異常な膨らみがないか確認して下さい。

- ・ ホイールに変形や亀裂、傷等の損傷や著しい腐食がないことを確認して下さい。



警告

- ・ ホイールナットの弛み、脱落や、ハブボルトの折損、変形等が無いことを確認してください。ホイールナットに弛みがあると、ホイールディスクの取付け穴の変形やディスク割れにつながる場合があります。発見した時はすみやかに規定トルクで締付けして下さい。




- ・ タイヤは車両の安全にとって重要な役割を担っています。一方、タイヤは様々な材料からできたゴム製品であり、ゴムの特性が経時変化するのに伴い、タイヤの特性も変化します。その特性の変化はそれぞれの環境条件、保管条件及び使用方法(荷重、速度)などにより左右されますので、点検が必要です。従ってお客様による日常点検に加え、使用開始後5年以上経過したタイヤについては、継続使用に適しているかタイヤ販売店等で点検後、ご使用いただくことをお勧めします。

また外観上使用可能のように見えたとしても、製造後10年経過したタイヤは、新しいタイヤに交換されることをお勧めします。


※ここに記載した10年という年数は、あくまで目安であって、そのタイヤの実際の使用期限(すなわち、使用に適していないこと、または安全上の問題があるかもしれないことを示す時期)を示すものではありません。従って、環境条件、保管条件及び使用方法によって、この年数を経過したタイヤであっても、使用に適している場合もあれば、この年数を経過していないタイヤであっても使用に適していない場合もあります。10年を経過していないタイヤであっても、上記の環境条件等によっては、使用できない場合もあることにご注意ください。また、この5年、10年という年数は、品質保証期間・期限を示すもの

ではありません。


3. 運転者の遵守事項に関するご注意

-  **警告** ・ フォークリフトや一般産業車両での使用条件は 25km/h以下の速度で、比較的短距離の断続走行作業を行う場合です。
 - ・ ノーパンクタイヤは空気入りタイヤに比べ発熱が大きく、高速での連続長時間走行は、発熱が高くなりバーストする危険があります。20km/h以上の連続長距離走行、自走による陸送・作業場間の移動でご使用の場合はご相談下さい。
 - ・ 車両に指定された積載量を超えた積載、かたよった積載で使用しないでください。過荷重や偏荷重はタイヤ寿命を短くするばかりでなく、タイヤ変形が大きくなることによる外傷、発熱が高くなることによるバースト、ホイール割れ等の危険があります。
 - ・ タイヤ・ホイールを傷付ける恐れがあるため、障害物との接触や衝突及び乗り上げは避けて下さい。
-  **警告** ・ 急発進、急制動、急旋回は危険ですので避けてください。特に濡れた路面、積雪及び凍結路面は、滑りやすくなります。乱暴で急激な操作はスリップ事故やタイヤのトラブル、積荷の落下、ホイール割れによる脱輪や転倒等の事故につながる可能性があるため、状況に応じた適切な運転をして下さい。
-  **警告** ・ 走行中に車両が操縦不安定になったり、異常な音、振動やゴム臭を感じた時は、すみやかに安全な場所に停車して、車両及びタイヤ、ホイール、ボルト、ナットなどを点検してください。

4. ホイール組付け・車両取付け時のご注意

- ・ ホイールの組付けが不適切な場合、タイヤとホイール間でのスリップ又はホイール割れの原因となります。合わせホイール(2ツ割りリム)は、ディスク両面をズレが無いように密着させ、ボルト、ナット、ワッシャーに弛みのないよう、適正なトルクで締め付けして下さい。リング式ホイール(TBホイール)はフランジ、ロックリングが正しい位置にセットされていることを確認してください。
-  **危険** ・ 一度ノーパンクタイヤに使用した「合わせホイール」は空気入りタイヤには絶対に使用しないで下さい。亀裂等がある場合、空気充填時や走行時に大きな事故につながる恐れがあります。
 - ・ 車両からホイールを外したときには、ハブボルト、ホイールナット、ホイールディスク、ホイール取り付け穴に損傷(ネジの潰れ、折損、亀裂、変形等)がないことを確認してください。
 - ・ タイヤを車両に取付ける場合、ホイールナットは弛みのないよう、トルクレンチを使用し規定のトルクで締め付けして下さい。インパクトレンチで締め付ける場合は、締め付け時間、圧縮空気圧等に留意して締め過ぎないように十分に注意を払い、トルクレンチでの確認を併用してください。2～3日間ご使用後、規定トルクで増し締めして下さい。
 - ・ ノーパンクタイヤは空気入りタイヤの2～3倍の重量があります。不自然な姿勢での持ち上げは、腰痛・足への落下・転倒等の危険があります。運搬具の使用、二人作業、転がすなどにより危険防止を図って下さい。

5. カラータイヤの取扱いご注意

-  **危険** ・ カラータイヤを全輪に装着した場合、特に樹脂路面や塗料仕上げ路面を走行する車両では静電気が帯電しやすく、何らかのショックでスパークし、火災等の重大な事故につながる危険があります。車両には「アースベルト」「チェーン」等を用いて、除電・放電の処置をして下さい。
 - ・ カラータイヤは黒タイヤと比べ床面を汚しにくいタイヤですが、トレッド表面に埃・塵・土砂などの汚れが付着した状態での使用は黒タイヤと同程度に汚す可能性があります。常にタイヤトレッド面と床面の清掃に努めてください。

6. 保管上のご注意

- ・ 重量物のため、高所及び高積みでの保管はしないで下さい。

- ・ 直射日光・雨水・油脂類の当る場所、高温多湿、熱源及び電気火花の出る装置に近い場所を避けて保管下さい。

愛知タイヤ工業株式会社